



本行事は SDGs を応援します

佐鳴湖いきもの交流会

対面開催
2 講師リモート

～ 現代の水質汚染

PFAS、ネオニコ農薬、マイクロプラスチック ～

静岡大学 地域連携応援プロジェクト「佐鳴湖プラットフォーム形成支援」行事として開催します
※講演 2、3 はリモート講演となります

日時：2024年 12/8（日）12：50～16：00

会場：静岡大学浜松キャンパス（浜松市中央区城北） 総合研究棟34教室

主催：静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト

昨年と会場が違います

協力：入野漁業協同組合、椎ノ木谷保全の会、昆虫食倶楽部、うぐいすの里佐鳴湖創生会、浜松魚部、

佐鳴湖シジミプロジェクト協議会、NPO法人縄文未来・縄文楽校、三遠南信水機能活用研究会

参加費：無料 対象：佐鳴湖やいきものに関心のある方ならどなたでも

佐鳴湖周辺でも河川や地下水から PFAS が検出されています。川魚や水生昆虫、エビやカニもほとんど見られません。全国的にアカトンボが少なくなったのは 1990 年代から使われ出したネオニコチノイド系農薬が原因と言われています。鳥の鳴き声も少なくなりました。そして、マイクロプラスチック、海に流れ出た量の 90% が行方不明で、どのような害があるかいまだに不明です。今回は、この三つの汚染物質について最先端の話聞く機会を設けました。

開会（12:50）

講演 1 (13:00) 「PFAS、日本と浜松の現状」

原田浩二先生（京都大学）

浜松市西部でも河川水や地下水から PFAS の検出が相次いでいます。天然には存在せず、分解性しにくく耐候性も良く撥水性・潤滑性があり、コーティング剤、消火剤として使われてきた PFAS は、やや水に溶ける構造を持たせた有機フッ素化合物です。低濃度でも発がん性があるといわれます。浜松市の状況も含めて解説していただきます。

講演 2 (14:00) 「こんなところにネオニコが？」

山室真澄先生（東京大学）

ネオニコはネオニコチノイド系殺虫剤の略称です。ミツバチの失踪やアカトンボ減少の原因かもしれないと言われています。浸透性で洗っても落ちないので、様々な農産物を通じてヒトも摂取し、子供の発達障害の一因ではないかとも言われています。ならば用心して無農薬農産物を食べようか。なんてことでは逃れることができない現状が見えてきました。

講演 3 (15:00) 「マイクロプラスチックをとらえる」

田中周平先生（京都大学）

生活と産業を大きく変えてきたプラスチック。私たちはそれが環境中に出たときに分解困難なゴミがある程度にしか思っていませんでした。微細化したプラスチックは水に溶けないマイクロな脂のようなもので、消化器や細胞膜も通ると言われていますが、どこにどれだけあるか、どのような害があるかあまりわかっていません。

佐鳴湖いきもの交流会 参加申込、問合せ先：

〒432-8561 浜松市中区城北3-5-1 静岡大学工学部 戸田三津夫

電話 053-478-1146、電子メール：toda.mitsuo@shizuoka.ac.jp 参加を希望される方は、件名を「佐鳴湖いきもの交流会202401参加希望」とした電子メールにて、[代表者の氏名（ふりがな）] [所属（任意）] を明記し、toda.mitsuo@shizuoka.ac.jpあて、12/7までに申し込んでください。